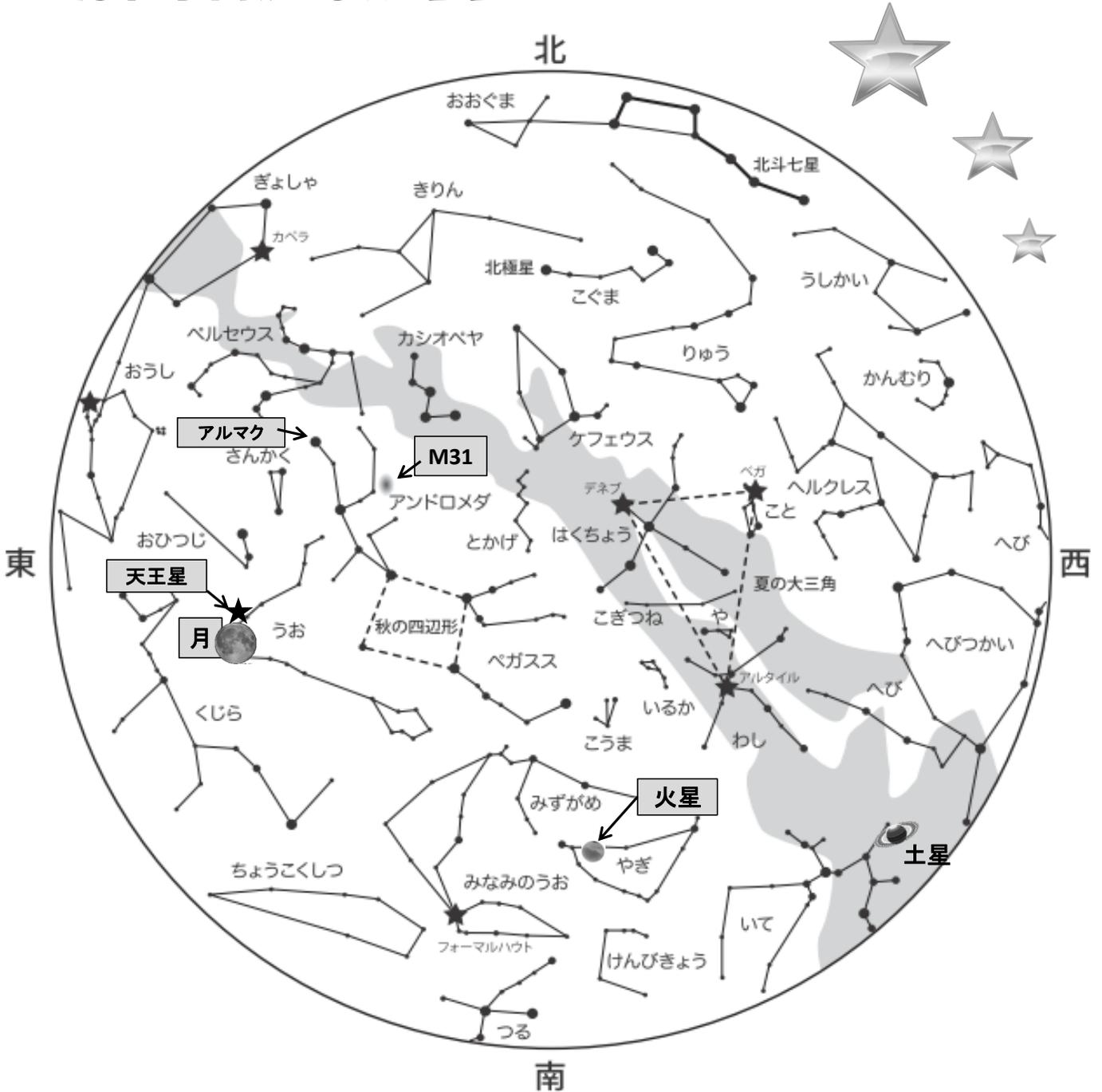


# 松江市立天文台～10月の天文教室～

平成30年10月24日

## 10月下旬午後8時頃の星空



10月下旬になり秋も深まってきました。紅葉の便りもすぐそこです。  
暗くなった西の空には夏の三角形が、南東の空高くにはペガサス座とアンドロメダ座の星で作られる秋の四辺形が見えています。

月が明るい今夜も比較的に見つけやすい星の並びですから是非探してみてください。

10月下旬午後8時頃の星空です。  
月、土星、火星、天王星の位置は10月24日現在です。  
この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

## 今夜の月

今夜の月は、月齢15

月は地球の衛星で、その直径は3千4百キロメートルあまり、27日で地球の周りを回っています。月が光るのは、太陽の光を反射しているためで、地球、太陽との位置関係でその形が変わります。今夜は満月の一日前で、まぶしいくらい明るい月が見られます。



## 火星と天王星

この二つの天体は、私たちの地球と同じく太陽の周りを回る太陽系惑星の仲間です。

○火星

今年の夏は大接近で話題になりましたが、現在も南の空で赤く輝いて見えます。

○天王星

天王星は直径が地球のおよそ4倍ありますが、太陽との距離が地球の19倍あまりと大変遠い惑星です。肉眼で見つけるのは困難で、天体望遠鏡で拡大すると青く光る姿を観察できます。



火星



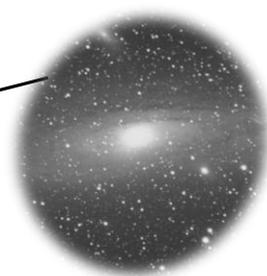
天王星

## アンドロメダ座



アンドロメダ座はくじら座(怪物ティアマト)のいけにえにされそうになったアンドロメダ姫の姿を表しています。この後、天馬ペガサスに乗った英雄ペルセウスがティアマトを倒し、アンドロメダを救出するという壮大な物語が、秋の星座にちりばめられています。

天文のデータは主に天文年鑑から引用しています。  
使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えます。  
また、空のコンディション(雲、透明度)により、天体の見え方は違います。



アンドロメダ銀河M31

230万光年のかなたにある銀河です。  
郊外に行くと肉眼でも雲のように見え、双眼鏡で楕円形の形が分かります。

二重星アルマク

アンドロメダの左足先にあり、アルマク(くつ)という名前が付けられた星です。  
天体望遠鏡で拡大すると、2等星と5等星に分かれて見える美しい二重星です。



## 次回の天文教室

開催日 11月28日(水) 20時から21時まで  
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)